

継続的なイノベーション： 次世代の製品開発

クラウドベースのプラットフォームで継続的なイノベーションを推進

はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りりと部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ

はじめに

成功している製品開発組織の多くが最優先事項として掲げているのがイノベーションです。しかし、イノベーションを1回成功させただけでは、十分とは言えません。競争上の優位性の維持とビジネスの成長を継続させることが重要です。先進的な企業は、イノベーションを最優先事項として掲げ、顧客の需要の変化に俊敏に対応しています。これこそが長期にわたって競争力を維持するための要因なのです。

チームがより高いレベルの創造性を発揮し、イノベーションを継続的に推進するには、単一の製品定義を中心とした製品開発プロセスに構築し直す必要があります。このアプローチでは、製品開発プロセスの全段階にわたる効率的かつ効果的なコラボレーション プロセスを通じて、設計、エンジニアリング、シミュレーション、製造の各分野の関係者全員が情報にリアルタイムでアクセスできる必要があります。

はじめに

第1章:

イノベーションを継続的に推進する

第2章:

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章:

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章:

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章:

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章:

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ



第1章： イノベーションを継続的に推進する

イノベーションを継続的に推進するのは、決して簡単ではありません。成功している製品開発組織は、俊敏性とコラボレーションを強化して、全社レベルで製品開発プロセスに参加できるよう促すソリューションを求めています。これを実現する方法の1つが、クラウドベースのプラットフォームを導入して、より迅速、スマート、効果的、かつ継続的なイノベーションを全社で推進することです。

このようなプラットフォームがあれば、アイデア出しから市場投入に至るまでに必要なすべての人、データ、アプリケーションを1つの統合コラボレーション環境にまとめることができます。製品開発チームは最新の製品情報にアクセスしながら、製品開発プロセスに貢献し、すべての段階で実現可能性を確保できます。



はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ

第2章： 縦割りと部門間の壁を解消する

多くの場合、全社レベルのコラボレーションの妨げとなるのが、縦割りの企業構造です。使用するテクノロジー ソリューションを全社レベルで調整するなど、企業構造と考え方を変革する上で経営陣の役割りは重要です。コラボレーション型のプラットフォームを導入すれば、物理的、デジタル的なつながりを断つ壁を解消し、チーム間の効果的なコラボレーションを実現できます。リアルタイムでコラボレーションすると同時に、イノベーション プロセスのサイクルを継続的に回しながら、製品開発を効率化し、概念を具現化していきます。すべての関係者が設計情報にオンラインでリアルタイムにアクセスできるため、安全性が確保されていないファイルや古くなったファイルをダウンロードする必要はありません。

イノベーション プラットフォームを導入することで、安全かつ共通的なインフラストラクチャと、高度な3次元モデリング、シミュレーション、データ サイエンス、コラボレーションの各機能を利用できるようになるため、製品の設計から製造に関与する各部門間の壁を解消できます。このプラットフォーム アプローチにより、製品開発に関与する全関係者が継続的に情報交換を行い、時間と場所を問わず、最新データに即座にアクセスできます。

単一の製品定義に基づいて製品設計を一元管理することで、各チームはシームレスに意見交換を行い、より優れた成果を達成できます。リアルタイムの設計コラボレーションにより、場所やデバイスを問わず、組織内の全員が製品開発プロセスに参加できるようになります。また、このプラットフォームでは、ソーシャル タイプのコラボレーションと構造化されたコラボレーションの両方をサポートする、各種の職務対応の包括的なアプリケーション群を利用できます。



はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りと部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ



第3章： 付加価値のないタスクを減らして、 効率性を高める

イノベーションの妨げとなる障壁を取り除くためには、付加価値のないタスクを減らして、効率性を高めることが重要です。製品開発の効率を悪くする大きな要因は、ファイルベースのシステムと不十分なコラボレーションです。ファイルの紛失や重複は、時間とリソースの大幅な浪費を招きます。さらに、ファイルベースのアプローチでは、同じファイルを複数のユーザーが同時に操作できないため、時間が余計にかかるうえに、設計作業を交代で行うという効率の悪さが発生します。Tech-Clarity社の調査(Clarity、2020年)によると、市場投入の遅延の主な原因はチームのコラボレーションの不十分さです。コラボレーションが十分でないと、コストが増加したり、品質上の問題が発生したり、市場の要求を満たすことができないことも明らかになっています。

プラットフォーム アプローチを採用すれば、データが安全であり、最新であることが保証されます。すべての関係者がプロジェクトで同時にコラボレーションし、初日から同じエンティティで作業できます。すべての材料が一元管理されているため、ファイル、ドキュメント、電子メールをやり取りする必要はありません。その結果、各個人およびチーム全体が、目的とする成果と顧客体験に基づいて、効率的に情報交換を行い、継続的にノウハウを活用し、定期的に学習し、俊敏に業務を遂行できます。工程間の引き継ぎがなくなり、製品開発プロセス全体をプラットフォーム上で実行できます。

はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ

第4章： 導入済みのテクノロジーを活用する

プラットフォーム アプローチを採用して既存の製品開発プロセスを最新化できれば、コストをかけずに試行錯誤とイノベーションを容易に行うことができるようになります。プロジェクト リーダーは、プロジェクトの変更、タスク、関連ドキュメント、データをリアルタイムで正確に把握し、プロジェクトのステータス、リソース、スケジュールに対する理解を深めることで、より効果的にリソースを割り当てることができます。

クラウドベースの高度なプロジェクト管理機能により、複数の部門や分散したチームが関与する場合であっても、効果的にコラボレーションを行い、計画を作成、調整、実行し、成功へと導くことができます。継続的な最適化、リアルタイムの進捗追跡、標準や法規制の遵守に基づいて、発見、分析、問題解決を行い、卓越した業務遂行能力を達成できます。

また、イノベーション プラットフォームにより、シミュレーションベースのバーチャル ツイン体験を活用しながら、現実世界を拡張および改善し、優れた顧客体験と持続可能なイノベーションを創造して提供できます。

これまでは、特定の人材が退職すると、その人材が保有する知識も組織から失われていました。クラウドベースのイノベーション プラットフォームを導入している場合、専門家のノウハウがプラットフォームに保存されるため、ベスト プラクティスを新しい従業員や既存の従業員と容易に共有できます。すべてのプロジェクトと製品データを同じプラットフォームで関連付けることができるようになり、その結果、成果を出せる手法が生まれ、知識とノウハウを強化して、将来的に再利用できるようになります。さらに、チームワークが促進されて、従業員は各自の業務に専念できるようになるため、すべての関係



者が足並みを揃えて共通の目標に向けて前進できます。このような環境では、創造力が向上し、従業員の満足度と定着率が最大限に向上します。また、人員補充やトレーニング時間の必要性がなくなります。すべてのチーム メンバーが、この継続的なイノベーション プロセスに各自の立場から効率的に貢献できます。

はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らし、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ



第5章： リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思 決定を行う

組織や製品開発部門は膨大なデータ(大量のCAD/CAE/CAMファイル、電子メール、PDF、スプレッドシート、顧客フィードバックなど)を抱えています。その多くは整理されておらず、実用的でもありません。しかし、プラットフォームアプローチを採用すれば、開発プロセスの透明性を高めて、データをビジネスインサイトへと変換できます。

プロジェクトのシナリオに変更(納期の変更、サプライチェーンの調整、コストの増加など)があった場合でも、全員がその変更内容を把握した上で協力して対応できます。個々の開発作業と、製品エンジニアリングの面でもビジネス運営の面でも緻密に練り上げた全体像がしっかりと結び付いていれば、組織はより俊敏かつ集中的に作業を遂行できます。このことは、製品、サービス、および基盤となるプロセスにも当てはまります。

製品開発に関する情報とインサイトを完全かつ全面的に可視化することで、製品開発リーダーは、実際のリアルタイム情報に基づいて、ビジネス上の意思決定を容易に迅速化して強化できます。さらに、戦略的プロジェクト分析をスプレッドシート上ではなく、進行中のプロジェクトのデータが緊密に統合された共有プラットフォーム上で実行することで、魅力的な製品や体験をより効率的に提供できるようになります。

はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りと部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

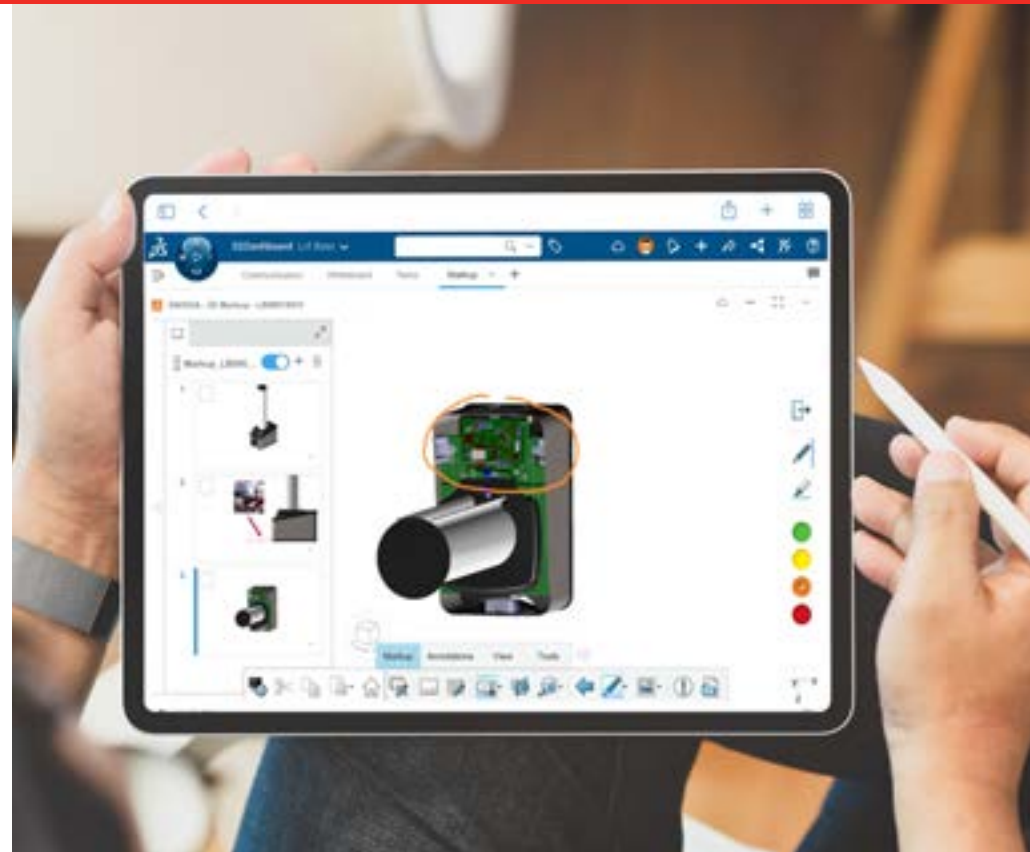
まとめ

第6章： 製品開発に特化したプラットフォームを体験する

3DEXPERIENCE® Worksは、製品開発に特化した唯一の製品イノベーション ポートフォリオです。このポートフォリオは、クラウドベースの**3DEXPERIENCE**プラットフォームに基づいているため、一元的な統合コラボレーション環境のもと、製品開発に関わるすべての人がイノベーション プロセスに貢献できます。その結果、チームの作業効率が大幅に向上します。

3DEXPERIENCEプラットフォームを使用すれば、各種システム間でのデータの収集と調整を手作業で行う必要性がなくなります。このプラットフォームにより、付加価値のない作業に費やす時間を最大25～30%削減できるため、エンジニアリング チームは付加価値の高い作業に専念できるようになります。これにより、市場投入期間を短縮できます。たとえば、Konica Minoltaは**3DEXPERIENCE Works**ツールの導入により、データ管理を自動化して、手戻りを排除し、**3DEXPERIENCE**プラットフォームをコミュニケーション チャンネルとして活用することで、製品開発サイクルを25%削減することに成功しました。

3DEXPERIENCEプラットフォームは、相互のつながりを持たないテクノロジーを1つにまとめます。これにより、すべての製品開発チームに共通の体験を提供し、人、アイデア、データを1つの環境にまとめて、ビジネス活動とエコシステムをリアルタイムで可視化し、効率的に成果を上げることができます。**3DEXPERIENCE**プラットフォームには独自の長があります。それは、業界先進の3次元モデリング/シミュレーション テクノロジーとデータ サイエンス サービスを搭載した唯一のプラットフォームだという点です。このプラットフォームにより、さまざまなビジネス体験やビジネス手法を用いて、各自の知識とノウハウを理解、判断、学習、活用、標準化できます。



3DEXPERIENCE Worksは、SOLIDWORKS®をご利用のお客様にさらなる価値をもたらします。追加の機能により、導入済みのSOLIDWORKSソリューションを強化することで、効率性の向上、コラボレーションの促進、イノベーションの推進、市場投入期間の短縮を実現できます。

はじめに

第1章：

イノベーションを継続的に推進する

第2章：

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章：

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章：

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章：

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章：

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ

まとめ

3DEXPERIENCE Worksにより、製品開発リーダーは製品開発の最新化を図り、将来に備えて機能を拡張できます。**3DEXPERIENCE**プラットフォームが、バリュー ネットワーク内のすべての関係者をつなぐため、複数の部門が関与する複雑な製品やシステムの設計と最適化を行うことができる俊敏なネットワークを構築できます。さらに、創造性を向上させて、有意義なやり取りを促進し、価値提供のスピードと量を改善し、まったく新しい方法でイノベーションを推進できます。イノベーションを継続的に推進することで、新しい機会、収益性、および長期的な展望が生まれます。



次世代の製品開発にぜひ**3DEXPERIENCE Works**をご活用ください。
詳細については、www.3dexperience.comをご覧くださいか、
お近くのSOLIDWORKS販売代理店にお問い合わせください。

ダッソー・システムズの**3D**エクスペリエンス・プラットフォームでは、**11**の業界を対象に各ブランド製品を強力に統合し、各業界で必要とされるさまざまなインダストリー・ソリューション・エクスペリエンスを提供しています。

ダッソー・システムズは、**3D**エクスペリエンス企業として、人々の進歩を促す役割を担います。当社は持続可能なイノベーションの実現に向けて、企業や人々が利用する3Dのバーチャル コラボレーション環境を提供しています。当社のお客様は、**3D**エクスペリエンス・プラットフォームとアプリケーションを使って現実世界の「バーチャル エクスペリエンス ツイン」を生み出し、さらなるイノベーション、学び、生産活動を追求しています。

ダッソー・システムズの約2万人の従業員は、140カ国以上、あらゆる規模、業種の27万社以上のお客様に価値を提供します。より詳細な情報は、www.3ds.com（英語）、www.3ds.com/ja（日本語）をご参照ください。



アジア - 太平洋

ダッソー・システムズ株式会社
〒141-6020
東京都品川区大崎 2-1-1
ThinkPark Tower

アメリカ大陸

Dassault Systèmes
175 Wyman Street
Waltham, MA 02451 USA

ソリッドワークス・ ジャパン株式会社

東京本社
+81-3-4321-3600
大阪オフィス
+81-6-7730-2702
info@solidworks.co.jp

はじめに

第1章:

イノベーションを継続的に推進する

第2章:

縦割りや部門間の壁を解消する

第3章:

付加価値のないタスクを減らして、効率性を高める

第4章:

導入済みのテクノロジーを活用する

第5章:

リアルタイムの情報に基づいて、より良い意思決定を行う

第6章:

製品開発に特化したプラットフォームを体験する

まとめ

©2022 Dassault Systèmes. All rights reserved. **3DEXPERIENCE**, Compass, アイコン, 3DS ロゴ, CATIA, BIOVIA, GEOVIA, SOLIDWORKS, 3D VIA, ENOVIA, NETVIBES, MEDDATAR, CENTRIC PLM, 3DEXCITE, SIMULIA, DELMIA および IFCWE は、Dassault Systèmes (フランスの "société européenne" (ベルギー工商登記簿番号 B 322 306 440))、または米国またはその他の国における子会社の商標または登録商標です。その他のブランド名や製品名は、各所有者の商標です。Dassault Systèmes またははその子会社の商標を使用する場合は、同社の書面による明示的な承諾が必要です。